

事例研究

大学のキャリア教育における キャリア構成インタビュー演習の有効性 — テキストマイニング分析による検討 —

Using Text Mining to Gauge the Effectiveness of the “Career Construction Interview” in University Career Education Programs

勝又 あずさ (関西学院大学 教務機構)

Azusa Katsumata (Organization for Academic Affairs, Kwansei Gakuin University)

小澤 康司 (立正大学 心理学部)

Yasuji Ozawa (Faculty of Psychology, Rissho University)

【要約】

本研究の目的は、大学のキャリア教育科目に応用したキャリア構成インタビューの有効性を明らかにすることであった。具体的には、演習形式のキャリア構成インタビューを体験した学生の自由記述から思考と行為のプロセスを探り、「主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動」が行われていることを検証した。キャリア構成インタビューで見出す人生のテーマや意味は、本来ならば「文章として表現される」ものであり、その生成された文章の意味を分類・整理するのが一般的である。通常テキストマイニング分析では、単語を単位に分割処理するため、文脈に依存した意味は消滅してしまうことが多い。

本稿のオリジナリティとして、文章全体から主観的意味の創出を確認する方法ではなく、「主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動」を示す語として「考える」「気づく」「感じる」「話す」「知る」「振り返る」「聴く」「書く」を学生の自由記述から抽出し、テキストマイニング分析を行った。分析の結果、演習形式のキャリア構成インタビューにおいて「主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動」が行われていることが明らかになり、教育への応用の有効性が示唆された。また、テキストマイニングを用いた新たな解析法の可能性が見いだされたといえる。

キーワード： キャリア構成理論 キャリア構成インタビュー ライフキャリア キャリア教育

Abstract

The purpose of this study was to gauge the effectiveness of the “Career Construction Interview” (CCI) as implemented in university career education class. Specifically, we investigated the thought processes and actions of students who experienced the CCI seminar style and verified that they were able to make sense of the CCI resources. Since CCI is narrative based, the themes and meanings with respect to life and career revealed by CCI are originally represented as sentences, so it is typical to classify and organize these themes and meanings accordingly. However, this study used text mining. In text mining analysis, context-dependent meaning disappears. The originality of this study lies in the method, which does not create subjective meaning from completed sentences. Rather, we extracted eight words—think, notice, feel, talk, understand, reflect, listen, and write. When these eight words were extracted frequently in the free description, it implied that subjective meaning had been created. This new analysis method demonstrated the effectiveness of the practice type of CCI.

Keyword : Career Construction Theory, Career Construction Interview, Life-Career, Career Education Programs

1. はじめに

文部科学省が国公私立779大学を対象に行った「大学における教育内容等の改革状況について」の調査によれば、96.9%の大学が教育課程内でキャリア教育を実施している（文部科学省，2017）。キャリア教育は大学教育が目指す学びと成長に資するものとして期待されているが、80.3%の大学は資格取得・就職対策等を目的とした授業科目を開設しているなどの現状がある（文部科学省2017）。キャリア教育を正課の科目として位置付けるうえでは¹、就職対策や作法の伝授ではない、理論に基づく授業設計が必要であり、キャリア教育を担う教員のファカルティ・デベロップメントも課題といえる。

一方、キャリア開発の分野においては、社会の著しい変化とともに新しいキャリア開発理論がSavickas（2011）を筆頭に国内外で提唱されている。加藤（2004）は適職やキャリアステージを示し型にあてはめる昔の理論はこれからのキャリア開発には不適切であり、キャリアにおける主観的意味構成の重要性を主張している。花田（2013）は、個々に直面するライフ・キャリアイベントを前向きに捉え自律的にキャリアを築くことの重要性について述べている。このようにキャリア開発に関する理論は時代とともに進化している。

キャリア構成インタビュー²（Savickas, 2015）は、米国にてキャリア開発支援を通して実践的に体系化され、現在は世界的に普及しており、日本では主に産業界のナラティブキャリア・カウンセリングの分野に導入されている。

高等教育における実践研究では、日本では小澤（2019）が授業への導入によりキャリア意識と授業理解度の関連を明らかにし、宗像（2015）は担当科目「キャリア心理学概論」での実践を例に「教え方」について述べている。教材においては、渡部（2016）による社会構成主義キャリア・カウンセリングを参考にした教材開発の研究がある。また海外では、Tracy（2017）がアメリカのケンタウ州立大学にてキャリア構成インタビューの手法を導入したキャリアプログラムを開講している。本研究では、日本の大学のキャリア教育科目において、演習形式のキャリア構成インタビュー（以下 キャリア構成インタビュー演習）を授業で6回に亘り実施し、その有効性を検証した。

2. 問題

2-1. 日本の大学のキャリア教育の課題

日本の教育において「キャリア教育」は、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力

や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育と定義され、また、「キャリア発達」とは社会のなかで自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく過程と定義された（中央教育審議会，2011）。

大学のキャリア教育は、単に卒業時点の就職を目指すものでなく、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、豊かな人間形成と人生設計に資することを目的とするよう示された（中央教育審議会，2011）。同年2011年4月の大学設置基準の改正では「社会的・職業的自立を促進する教育カリキュラムの構成」が求められ、「社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）の義務化」が示され、それを機に各大学でのキャリア教育科目の開講が加速した。現在のキャリア教育の課題として、児美川（2018）は、当初の就職難、フリーター・ニート、早期離職等の若年雇用問題の対症療法としての施策が目立ち、ワークキャリアに偏り、ライフキャリアへの視点が弱いことを指摘している。

昨今の「人生100年時代構想」（内閣府，2018）をはじめ、「人生100年時代の社会人基礎力」（経済産業省，2018）、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（文部科学省，2018）、それをうけての経済同友会（2018）の意見にも、産業界の中期的ニーズをも考慮したライフキャリア教育への期待が示されている。つまり、大学のキャリア教育において、社会に出てから直面するであろう様々な課題を「働く」視点から考えることに加え、「人生を生きる」＝ライフキャリアの視点から考えることも重要になる。

大学の教育内容や、企業の採用ルール、就職後の雇用制度をはじめ、自身をとりまく社会の制度の変更や、少子高齢化、グローバル化、ICT・AI化等の環境の変化に、学生は能動的・自律的にキャリアを築いていく力が必要になる。勿論、学生は社会に出る前の現在もライフキャリアの形成の過程にあり、学生生活のライフイベントにおける「経験」を内省し意味づけ卒業後にも活かすことはできる。ライフキャリアの視点を大学のキャリア教育に導入するには、人生のデザインや自己のアイデンティティの再構成を行う具体的なアプローチが必要といえる。

2-2. キャリア構成理論・キャリア構成インタビュー

Savickas（2015）はキャリア構成理論において「個人は、自身のことを語り、職業行動と職業経験に意味を見だし、それぞれを統合しライフ・ストーリーを自ら創造していく。そのプロセスにおいて、経験を内省し自己を構成し自身の人生に主観的意味を見いだす」

と述べている。この理論に沿ってキャリア・カウンセリングを行う手法として「キャリア構成インタビュー (Career Construction Interview)」を提唱している。キャリア構成インタビューは主要な5つの質問で構成されている (Table 1)。これらの質問の回答から、「ライフ・ポートレート」³を作成する。クライアントは、一連のプロセスを通して人生のテーマや意味を見だし、ライフ・デザインを行う。

Table 1 キャリア構成インタビュー
主要な5つの質問/見出される要素

1. 子どもの頃に憧れていた人 (ロールモデル)/自己概念
2. 定期的に読んでいる雑誌・TV番組/職業上の興味、望ましい場所、価値観
3. 好きな本や映画 (ストーリー)/人生の台本、自身の将来の可能性
4. 指針となる言葉/自身に対して行う助言、自分を後押しする力
5. 幼い頃の思い出/人生の見方、捉われ

Savickas (2015) より引用 筆者により一部改変

2-3. 意味づけの内的プロセスと分析の可能性

キャリア構成インタビューで見出す人生のテーマや意味は、本来ならば「文章として表現される」ものであり、その生成された文章の意味を分類・整理するのが一般的である。テキストマイニングと呼ばれるテキストを対象とした分析ではデータマイニング (データから、特定のパターンや傾向を探し出す) 方法が使用され、単語を単位に分割処理するため、文脈に依存した意味は消滅してしまうことが多い。

次に「意味づけ」について、深谷・田中 (1996) は「意味づけ」を、人間が状況を把握し対応を思念する内的営みと定義し、状況から様々な刺激を受け取り、知覚し、感じ、思い、考え、評価・判断し、あるいは決意し、そして、行動する一連の過程の内部の出来事であると述べている。また深谷・田中 (1998) では、話し手が意味づけた内容を表現することによって事態を構成し、聞き手は語られた事態を構成するとともに対応を思念するといったように、意味づけの内的プロセスを「記憶連鎖の引き込み合い」と述べている。

これらの考え方をもとに分析方法についていえば、従来の文章の文脈から意味を読み取る方法ではなく、意味づけのプロセスにおける行為としての「知る」「感じる」「考える」などのキーワードを検出するという、新たなテキストマイニングによる分析の可能性が示される。

3. 目的

本研究の目的は、大学のキャリア教育科目におけるキャリア構成インタビュー演習の有効性を明らかにすることである。具体的には、キャリア構成インタビュー演習を体験した学生の自由記述から、「主観的意味を創出するプロセスの行為=内省活動」が行われていることを検証する。本稿のオリジナリティとして、文章全体から主観的意味の創出を確認する方法ではなく、「主観的意味を創出するプロセスの行為=内省活動」を示す語として「考える」「気づく」「感じる」「話す」「知る」「振り返る」「聴く」「書く」を学生の自由記述から抽出し、テキストマイニング分析を行う。8つの語が自由記述の中に高頻度で抽出されるならば、主観的意味を創出するプロセスの行為が行われていたと解釈できる。産業界で提唱されているキャリア構成インタビュー (Savickas, 2015) は主に職業人を対象としているが、学生を対象にこのような演習形式での有効性を明らかにすることで、「キャリア構成インタビュー」の教育への新たな応用を示唆する。

4. 方法

4-1. キャリア構成インタビュー演習の実践

4-1-1. 実践の概要

国内文系私立大学の全学部共通キャリア教育科目にキャリア構成インタビュー演習を導入した。この科目は全学部1、2年生対象、履修登録者数87名 (2018年度)、選択科目で、半期全15回のうち、キャリア構成インタビュー演習は計6回に亘り実施した。基本は個人で言語化し内省活動を通して意味を構成する。演習の一部は2人組になり可能な範囲で内容を共有する。質問の5つ目「幼い頃の思い出」については、トラウマ体験など思い出したくない体験を持つ学生を考慮し、自主的取り組み (宿題扱い) とし説明に留めた。

4-1-2. 実装科目の全体像

本研究では、対象科目のキャリア構成インタビュー演習 (計6回) に焦点をあてるが、その詳細の前にまず科目の全体像と位置づけについて触れておく。本科目の目的についてシラバスには次のように記している。「本授業の目的は、自己理解を通して、大学生活と卒業後も視野に入れたキャリア (≒人生) の意味を見いだすことである。具体的には、自らキャリアを形成していく上で必要な考えかたを、キャリア構成インタビュー (Savickas, 2015) を通して、理論と実践を組み合わせながら学んでいく。前半は“自分らしさ”を追究し、後半は“キャリアビジョン”を描いていく。中

盤にはゲストセッションを予定している。大学時代のこの節目、重要なこの時にこそ、自分をよく知り、大学生活と卒業後の社会生活にも発揮できる自分の魅力を見つけて育てていく。この授業の進め方についてだが、教室の座席は毎回くじ引きとし、2人組または4人組になりワークを行う。各回、学部学年異なる学生との対話を重視した。授業90分間は毎回、導入→アイスブレイク→講義→個人・ペア・グループワーク→解説・まとめ・ふりかえり・次回の説明というながれで組み立てている(勝又, 2016)。尚、リフレクションシート(授業の終盤に感想などを書き提出させるシート)の配付・回収はせず、毎回の課題レポートをLMS(Learning Management System, 以下LMS)を通して後日提出させた。尚、到達目標(Table 2)の「1. キャリア構成インタビューのプロセスを通して自分のキャリアの意味づくりができる」がキャリア構成インタビュー演習での学びに該当する。

Table 2 科目の到達目標

-
1. キャリア構成インタビューのプロセスを通して自分のキャリアの意味づくりができる。
 2. 自分と他者と社会について考え、大学で学ぶ意味、働く意義について、自身の意見を論理的に表現できる。
 3. 集団の中で自己の価値を発揮し、他者の価値を引き出し、リーダーシップを発揮する場をつくる。
-

4-1-3. 導入科目の授業計画(全15回)

キャリア構成インタビュー演習は第4～6回、第9～10回と第14回に実施した(Table 3の下線部分)。授業ではその他に、初回のオリエンテーションに続き、エニアグラムによる性格タイプ診断、ライフラインチャートの作成、経験学習(松尾, 2011)に沿ったディスカッション、価値観・仕事観の言語化、ドリームリスト・未来年表・デッサンワーク、目標設定・行動計画、したいこと・できること・すべきことの洗い出し、ピアフィードバックといった内容で構成した。また、中盤2回のゲストセッションでは、即興劇への参加による偶発性の理解と、卒業生のキャリアストーリー(語り)を聴く機会を設けた。

Table 3 授業計画

-
1. オリエンテーション キャリア構成の意義 ライフ・キャリアにおける人権の尊重 クラスづくり
 2. 自分を理解しよう① 性格タイプを知ろう(エニアグラム)
 3. 自分を理解しよう② 歩んできた道をふりかえる・ライフキャリアレイナー・統合的人生設計
 4. キャリア構成インタビュー演習① 自己概念(幼い頃に憧れていた人)・キャリア構成理論
 5. キャリア構成インタビュー演習② 価値観(いつも読む雑誌等)・職業選択論
 6. キャリア構成インタビュー演習③ 人生台本(今好きな本や映画のストーリー)
 7. ゲストセッション① 即興劇を通してキャリアの不確実性・人との関係構築を学ぶ
 8. ディスカッション① 先輩とのダイアログを通してキャリアの多様性と偶発性を学ぶ
 9. キャリア構成インタビュー演習④ 原動力 指針となる言葉(好みの名言・格言)
 10. キャリア構成インタビュー演習⑤ 人生の見方(幼い頃の思い出) /ちょっとしたひっかけ
 11. ディスカッション② 働きがいと生きがい
 12. ディスカッション③ 未来を描こう(キャリアデッサン)・計画された偶発性理論
 13. ディスカッション④ 未来を描こう(キャリアビジョン)
 14. キャリア構成インタビュー演習⑥ 自分へのアドバイス(ライフ・ポートレート作成)
 15. ディスカッション⑤ 未来を描こう(キャリアプラン・アクションプラン・コミットメント)/総まとめ
-

下線がキャリア構成インタビュー演習の回(計6回)

4-1-4. 教材「キャリアノート」の開発

授業用の教材（以下 キャリアノート）については Savickas (2015) と Tracy (2017) を参考に新たに開発した。キャリアノートは、A4サイズ計16ページの冊子形式で制作し、第1回の授業で配付し毎回持参することを義務付けた。キャリア構成インタビュー演習については、計5つの質問（Table 1参照）につき各1ページとライフ・ポートレート用に別途1ページ設け、その他のページは、自己理解ワークのテンプレートや授業で扱う理論を記入するスペースに充てた。この5つの質問について思考し、言語化し、書きとめる作業、そして話し、聴き、意味づけるプロセスを重視するために、学生が自身のノートを「創る」ことを目的としている。プライバシーを尊重し、キャリアノートの提出は成績評価基準には含まれていない。キャリアノートにおけるキャリア構成インタビューの記入項目は、次の4-1-5で述べる。

4-1-5. キャリア構成インタビュー演習（計6回）の実践

本稿における「キャリア構成インタビュー演習」では、5つの質問からライフ・ポートレート作成までのプロセスを演習形式で実施した。尚、キャリア・カウンセリングにおいては、カウンセラーがクライアントの語りを記録しライフ・ポートレートを作成し、クライアントと「共構成」をしていくため、クライアントが語る際に自身が「書く」作業がなくても「ライフ・ポートレート」に活字として残る。一方でキャリア構成インタビュー演習においては、学生自身が記入するため、記入も演習のプロセスに含まれていることを予め述べておく。

以下に、キャリア構成インタビュー演習計6回（主な5つの質問とライフ・ポートレート作成）の実践を述べる。演習ではいずれも、講義と個人ワークの後に、ペアワークを行い、記入内容をさらに具体化する。終盤にはシートを成熟させるための個人ワーク、最後にピアフィードバックを行う（ノートにコメントを書きあう）。90分間という限られた時間を有効にするために、前の回の終盤に次回の概要とノートへの記入方法を伝え、個々で考え記入をした内容をもとに授業を進めた。

i. 演習① 自己概念（質問1：幼い頃に憧れていた人）

キャリア構成インタビュー演習の初回は現状認識から始める。社会の急速な変化に伴う労働者の業務内容や働きかたの変化の理解、諸問題に当事者意識をもつ必要性、人生のテーマや意味を見いだすことの重要性

について議論を行う。次に、キャリア構成理論・キャリア構成インタビューの紹介、その後演習①を行う。質問1「幼い頃に憧れていた人はどんな人か」では、その人の名前（呼称）、性格や特徴（…な、…しているという文表現でできるだけ多く記す）、なぜその人を選んだか、その人はどのように問題を解決したか、できるかぎり具体的に記す。3人分記入し3人の共通点と相違点を記す。最後に感じたことをノートに書き留める。

ii. 演習② 価値観（質問2：いつも読む雑誌等）

演習②の冒頭は、働くスタイル、働く現場、職業選択要素についてのフリーディスカッションを行う。講義・ワークとして、職種と業種の説明、職業選択理論の紹介、簡易チェックシートによるホランドタイプ診断を行う。質問2「好きな雑誌・テレビ番組・ウェブサイト」については、そのどんなところが好きか、それはなぜか、どんな特集・テーマ・コーナーが好きか、見出しや特徴の他に、該当するホランドタイプを記す。演習①と同様、3つ分記入し3つの共通点と相違点を記す。

iii. 演習③ 人生台本（質問3：今好きな本や映画のストーリー）

演習③では、最近読んだり観たりした本や映画のなかの「好きなストーリー」の概要とアクションワード、役柄・キャラクターの興味を持つ部分、そのキャラクターの主な競合相手、そのキャラクターはどのように挑戦し問題を解決したか、クローズアップする場面はどこかをまとめ、キャラクターのライフラインチャートを作成する。演習①②同様に3つ分記入し、この3つの共通点、共通する挑戦や問題解決法を記す。その後、これらのストーリーから学生自身の人生台本を採用するとしたらどの部分か、自身のキャリアにおいて直面した課題を解決する（意思決定をくだす）ときにどんな力を発揮するかを記入する。

iv. 演習④ 原動力 指針となる言葉（質問4：好みの名言・格言）

演習④の冒頭では、「今の自分へ導いたあの人のあのひとこと」について述べあう。その後、お気に入りの言葉やモットーを思いつくまま書きだす。その言葉が好きな理由、その言葉とはいつどこで出会ったか、誰からの言葉か、言葉に出逢ったときの自分の気持ちやそのときの自分の状況など背景やエピソード、どんなときにこの言葉を思い出すか、どんなときに使うか、その言葉は自分に何を伝えているかを記す。

v. 演習⑤ 人生の見方（質問5：幼い頃の思い出）

演習⑤は、授業では説明に留め、個々に記入しておくよう宿題として指示する。3歳から6歳くらいまでの思い出を3つ記す（順番は自由）。それはどのような思い出か、誰が登場しどのようなストーリーか、そのときの状況や当時の気持ちも活字にする。また、その思い出の印象的な場面を写真に撮ったとしたら何が写っているかを絵や言葉や記号などを使い描く。その脇には見出し（新聞にあるような動詞で終わるフレーズ）も記す。できれば3つ分記入し、3つの思い出の共通点も書き留める。

vi. 演習⑥ 自分へのアドバイス（ライフ・ポートレートの作成）

以下の7つの問い（Savickas, 2015）に、演習①から演習⑤で記入した内容を要約・転記しながら、ライフ・ポートレートを作成する。

- I 捉われ：私が心配していることは（演習⑤幼い頃の思い出より）
- II セルフ：わたしは…のような人になる（演習①自己概念より）
- III 場：私は人々がこのような活動をしている場所にいたい（演習②価値観より）
- IV 台本：好きな映画や本の筋書は/台本（演習③人生台本より）
- V 成功の公式：私が…ならばもっとうまくやっているし幸せに思うだろう（演習①自己概念を参考）、そのために自分ができること（新たに記入）、その場面・舞台（演習②価値観を参考）、そうすれば、わたしは…ができる（演習⑤幼い頃の思い出を参考）
- VI 自己へのアドバイス/自分に与える最高の忠告（演習④原動力より）

尚、このキャリア構成インタビュー演習⑥の翌回が授業の最終回となり、今後1年間の目標に沿った行動計画を立てた。

4-2. 調査対象

キャリア構成インタビュー演習を導入した科目の演習計6回における、学生の「主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動」をテキストマイニング分析で検証する。実際にキャリアノートを使用して授業を受講し課題レポートを提出した学生計53名を対象に調査を実施した。対象者の内訳は、1年生が43名・2年生が10名、男子学生22名・女子学生31名、該当する授業計6回の授業すべて出席した学生が44名、5回出席が7

名、4回出席が2名となっている。調査は、対象者全員に書面にて承諾を得て実施した。

4-3. 実施方法

LMSを通して提出された課題レポートのうち、授業第14回（ライフ・ポートレートを作成したセッション/2018年7月13日）の終了後に課した、テーマ「キャリア構成インタビュー演習計6回を通して学んだことや気づいたこと」の回答を、KH Corder（樋口, 2014）で分析した。記述は300字以上と指定し、各々の回答は304文字から1057文字まで、平均は472文字であった。データの読み込み時には前処理として、「気付く」を「気づく」に置換、「キャリア構成インタビュー」と「キャリア形成」を強制抽出、「思う」「思います」はレポート記述の性質上、使用しない語として設定した⁴。その結果、計53文書、計246の文より、14,816（使用5,237）語が抽出された。また、文章データに加え、該当6回の授業への出席回数を外部データとして入力した。分析は、1. 抽出語の頻度の確認、2. 抽出語間の共起ネットワーク、抽出語と外部変数（授業出席回数）の対応分析・共起ネットワークによる考察、3. 仮説コーディング（仮説検証のための8つのコードを構成）、4. 仮説コードと外部変数（授業出席回数）の対応分析・共起ネットワークによる考察を行った。1.で自由記述の内容と傾向を把握したうえで、2.と4.では授業出席回数ごとの相違を確認した。3.と4.では、キャリア構成インタビュー演習のプロセスで重要な8つの行為（コード）を選抜き、その頻度と共起性を検証した。

本稿2-3.で述べたように深谷・田中（1998）は意味づけの内的プロセスを「記憶連鎖の引き込み合い」と述べていることから、深谷・田中（1996）が示した意味づけの一連の過程の行為の共起性が高ければ、より深い内省活動が行われているといえよう。よって内省行為の語句が記述のなかに出現し共起性が高ければ、主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動が行われていたと解釈する。

5. 結果

5-1. 頻出30語の分析

全対象者のデータをもとに、まず、自由記述における出現頻度の高い単語について上位30語を抽出した。結果をTable 4に示す。キャリア構成インタビューを通して学んだことについての記述で最も出現頻度が高い語は、「自分」と「人」である。また、「キャリア」「夢」「目標」「将来」「経験」「人生」「キャリア形成」「ストーリー」などの人生のテーマや意味を表す語が

頻出している。そして、「好き」「考える」「知る」「話す」「感じる」「気づく」など内省活動を示す行為に関する語の出現頻度が高い。好きなストーリー等を掘り下げ、語りあう、そのプロセスから自己理解を深める、キャリア構成インタビュー演習のプロセスに沿った抽出語といえる。

Table 4 自由記述で出現頻度が高い語と出現回数 (上位30語)

自分	346	気づく	30	経験	23
人	139	キャリア	29	出来る	23
好き	69	ペア	29	人生	23
考える	66	夢	29	違う	21
今	62	相手	28	演習	21
授業	59	大切	25	言葉	21
キャリア構成インタビュー	42	聞く	25	振り返る	20
知る	39	目標	25	キャリア形成	19
話す	38	将来	24	見る	19
感じる	35	話	24	ストーリー	18

5-2. 頻出語の共起性

抽出語間の共起性と、抽出語と授業出席回数（外部変数）との共起性を分析した。共起ネットワーク図において、出現回数は図形（円）の大きさに比例し、共起・関連の強さは図形の位置や近さではなく線で接続されているか否かとその強さで表現されている（樋口, 2014）。Figure 1はプロットする語を動詞・形容動詞・形容詞のみに限定した語間の共起性を表している。「好き・気づく・振り返る」、「考える・話す・聞く」、「知る・感じる・分かる・大事」のほか「憧れる・見える・違う・持つ・大切」の共起性も高いことがわかる。Figure 2は、抽出語のうち動詞・形容動詞・形容詞と授業出席回数（外部変数）の共起性を示している。キャリア構成インタビュー演習へ全6回または5回出席した群は、内省活動に関する多くの語との共起が高い。

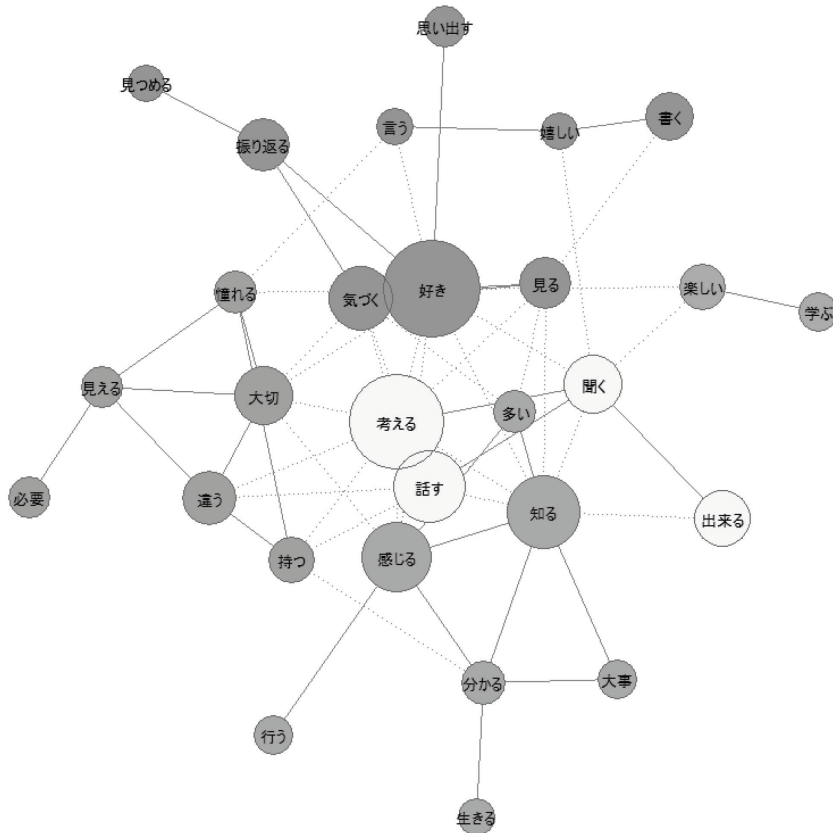


Figure 1 抽出語（動詞・形容詞・形容動詞）の共起ネットワーク

このことは、主観的意味を創出する行為として「考える」が重要であり、「気づく」「感じる」「話す」「知る」「振り返る」「聴く」は主観的意味を創出する「考える」に関連した一連の内省活動であることを示しているといえる。

また、このことからキャリア構成インタビュー演習において、「主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動」が活発に行われていたことが示唆される。

Table 5 仮説コード・抽出語と単純集計

コード	抽出語	頻度	割合
考える	考える or 考え or 考え直す or 考えつく	39	73.58%
気づく	気づく or 気付く or 気がつく or 見いだす or 思いつく	27	50.94%
感じる	感じる or 感じた or 引っかかる or 見つめる	26	49.06%
話す	話す or 話せる or 語る or 言う or 伝える or 喋る	25	47.17%
知る	知る or 知れる or 理解する or 分かる	24	45.28%
聴く	聴く or 聞く or インタビュー or 引き出す	24	45.28%
振り返る	振り返る or ふりかえる or 振返る or 思い出す or 思い返す	18	33.96%
書く	書く or 書ける or 書き留める or 記入する or 記す or 書き込む	13	24.53%
コード無し		1	1.89%

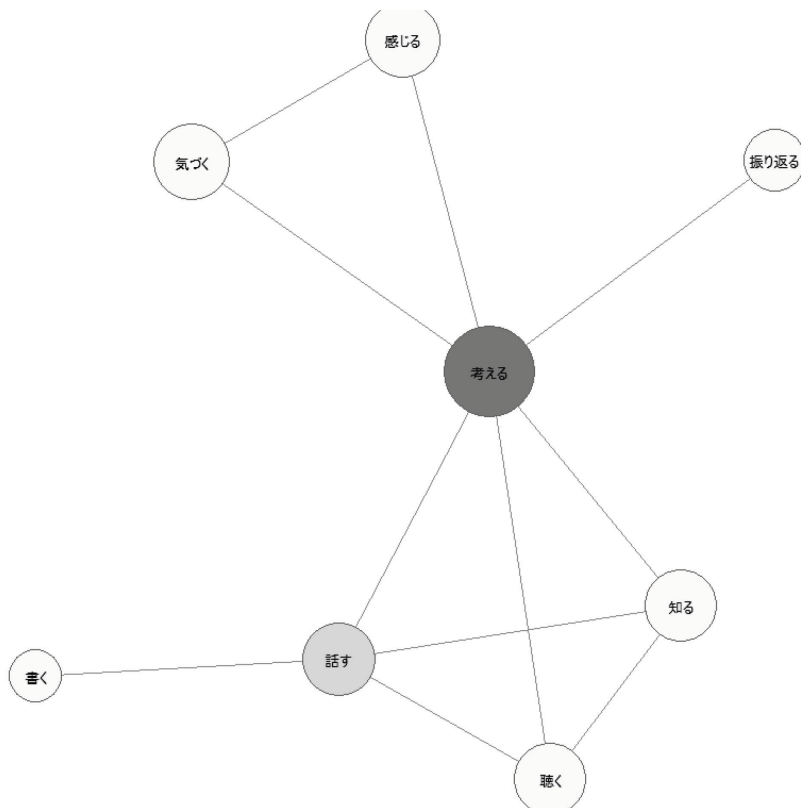


Figure 3 8つの仮説コードの共起ネットワーク

5-4. 仮説コードと外部変数（授業参加回数）の対応分析

仮説コードと外部変数（授業参加回数）の対応分析の結果をバブルプロット形式でFigure 4に示す。キャリア構成インタビュー演習に全6回または5回出席した群は、8つのコードとの共起性が高いことが分かる。

5-5. 自由記述の意味構成による検証の妥当性

テキストマイニング分析では、自由記述の文脈を理解するのは難しい。分析に使用した学生の記述の中で、キャリア構成インタビューのプロセスに関連した3名の記述を例として示す。「主観的意味を創出するプロセスの行為=内省活動」を示す8つのコード（筆者による下線）が、意味づけの内的プロセス「記憶連鎖の引き込み合い」に対応していることを立証するために、意味の構成に相当する部分を□で囲み、その対応を明示する。

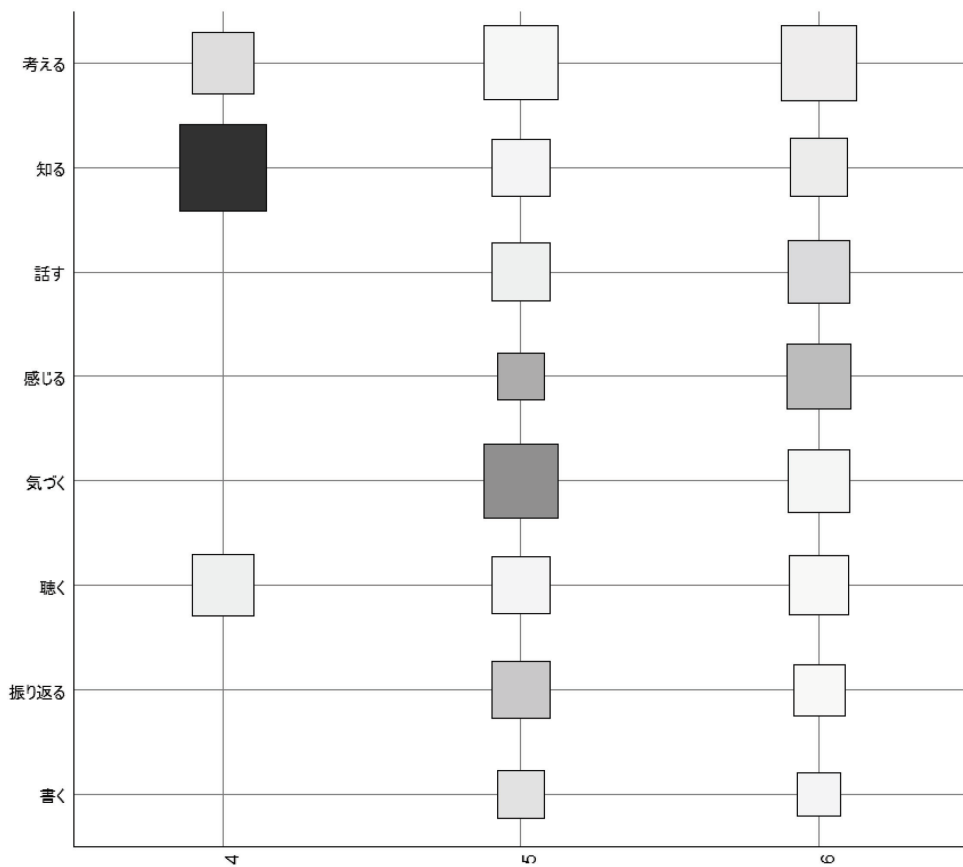


Figure 4 8つの仮説コードと「授業参加回数」のクロス集計（バブルプロット）

自由記述 1：脱構成に関する記述例

キャリア構成インタビューで自分の過去を振り返ったり、今の自分を考えたりしたことで、自分について今までよりも知ることができました。私のヒロイン、好きなテレビ、好きなストーリーを振り返り、分かったことがあります。それは、私の好きな物語は、全て小さい少女少女たちが自分の力で困難に立ち向かっていたということですよ（プリキュア、コナン、ジブリでした）。そして、私はかなり臆病で他人に流されやすく自分の核となるものがない人間です。だからきっと、先程の物語を見て、無意識に主人公たちに惹かれ、憧れを持っていたのだと思います。なにせ、自分より年下の子ですから、よりいっそう彼女たちがカッコよくみえたのだと感じました。キャリア構成インタビューはこのことを気付かせてくれて、私に今ないものと欲しいものを明確にすることができました。また、幼い頃の思い出を振り返った時、泣いているものばかりが思い浮かびました。私は泣き虫だったため内気な性格に育ちました。そんな幼少期とは対照に物語の少女少女たちは強く生きて壁に立ち向かって立派な人へ成長していきます。その差を私はすごく感じました。もう私の幼少期は戻ってこないけれど、今からでも遅くないと思います。だから私は、キャリア構成インタビューに取り組んでから自分を信じて行動するよう心掛けるようになりました。そして、これからも私は年下の子どもたちを見習って生きていくと思います。

自由記述 2：ライフ・ポートレート作成における統合に関する記述例

キャリア構成インタビューでは自分の思っていることがすんなり出てきて、自分はこんなことを感じてるんだと納得ができた。また、それをライフ・ポートレートに順番に書くことでそこに関連性を見出すことができ、うわっこの感覚だ！と思った。私が居たいと思う場所は「演劇を作り出している場所」いわゆる稽古場や劇場だ。だがよく考えて見ると、「性別年齢国籍関係なく笑える場所」私はそこに居たいのかなと感じた。前の習い事も年齢層が広がったし、バイト先にはそれぞれ外国人もたくさんくる。今までの環境も含め、そういった人間に共通する楽しさがある場が私に心地よいと思わせてくれるのかなと思った。

自由記述 3：ナラティブ・アイデンティティの構成の例

この演習は授業で6回、時間にして約9時間かけてやった、このキャリアの授業のメインでもありますが、なぜこれだけやる必要があったのか、私は今回のラ

イフ・ポートレート作成でわかった気がしました。まず、自分がどんなものが好きなのかということを綿密に絞り出していました。これはジョハリの窓という開放の窓と秘密の窓にあたります。そしてその自分で出した好きなものを他者と共有しました。そしてその他者から新たな刺激、つまり自分で知らなかったことを知るようになったのです。これは盲点の窓にあたります。そして未知の窓を開くために今日こうして生きている。全部繋がっていたのかと思うとこのインタビューは本当にうまくできていると納得しました。私たちはこれだけ時間をかけて色々な分野の窓を開けていったのです。1人では分からないことも他者からの視点で見れば分かるようになる。この他者からのフィードバックが大事だからこそ6回にわたる授業になったのだと思います。せつかくこれだけ時間をかけてやったのだから、この他者からの視点というのを大事にして生活していこうと思いました。

6. 考察

本研究の目的は、キャリア構成インタビューの手法を大学のキャリア教育科目へ応用する有効性の検証であり、そのために、キャリア構成インタビュー演習における学生の自由記述をテキストマイニング形式で分析した。まず出現頻度の高い語は概ね「人生のテーマや意味」を表す語とキャリア構成インタビューでの自己の内省活動に関連する語であった。対応分析では、演習全6回または5回出席した群は特徴的な語が多く、この群では理解が深いことが推測できた。キャリア構成インタビュー演習における主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動を表す8つの行為「考える」「気づく」「感じる」「話す」「知る」「振り返る」「聴く」「書く」をコード化した。演習全6回または5回出席した群は8つのコードが自由記述の中にバランスよく抽出されていた。また自由記述の対比確認から、「主観的意味を創出するプロセス行為」が行われていたことが確認された。

今後の課題について述べる。今回はキャリア構成インタビュー演習全6回を一括して分析し「主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動」が行われていたことを確認した。今後は、6回各々の演習の内容によって8つの仮説コードはどのような相違を示すかの確認が必要である。また、「テキストマイニングによる内省活動の分析」が、他の演習や自由記述課題に適応できるかについても検討する。

その他の課題として、「書く」、「振り返る」についての共起性が挙がる。8つのテーマの共起ネットワーク図では、「考える・感じる・気づく」に、「考える・話

す・知る・聴く」に共起性がみられた。しかし「書く」は「話す」と、そして「振り返る」は「考える」との関連に留まった。これらは授業設計における課題として別途検討する。

最後に本研究の限界について述べる。第1に、調査・分析の範囲と対象者についてである。今回の分析の対象は、1つの大学の1つの科目での実践である。また分析対象の自由記述は履修生のうち提出された53名分であり、分析対象の文章量も限られている。内容は授業レポートとして成績評価に反映することを前提で記述している。実践者も筆者のみである。妥当性の面では異なる設定での対象者の検証も必要である。

第2に、主観的意味を創出する、その他の要因についてである。授業は「キャリア構成インタビュー」以外のコンテンツも組み込んでいる。エニアグラムによる性格タイプ診断、ライフラインチャート作成等を通しての他者との対話、各キャリア開発理論の紹介など、5つの質問以外にも自分を知るプログラムを実装している。記述内容にも少なからず影響を及ぼしているだろう。

第3に、学生の意味づけ力についてである。キャリア構成インタビューは、カウンセラーからの質問を通して自己を意味づけることが一般的である。社会人に比べ経験が浅い学生が授業で5つの質問に答えるその内容は、社会人に比べて未熟な場合もある。学生が主観的意味を構成するのに時間がかかることもあるだろう。ライフイベントに直面したときに気づくことも考えられる。その意味では対象学生の経過観察も次の研究に検討したい。

7. 結論

前述のような課題を残しつつ、「考える」「気づく」「感じる」「話す」「知る」「振り返る」「聴く」「書く」が自由記述の中に高頻度で抽出されることから、「主観的意味を創出するプロセスの行為＝内省活動」が行われていたと解釈することができる。よって、大学のキャリア教育におけるキャリア構成インタビュー演習は有効といえよう。キャリア構成インタビューにおける「自身のライフキャリアを振り返り、語り、意味を見出し、自身へのアドバイスを知る」という考え方は、今後学生が直面するライフイベントにおいて応用することもできるだろう。

前述の課題を解決するとともに、大学での新たなキャリア教育としての示唆に留まらず、いずれは社会人教育への活用も検討していきたい。

注

- 1) 長田ら(2018)によれば、昨今、正課としてのキャリア教育科目は全学部共通教育科目の中に位置付けられることも多く、その場合には全学部横断的に開講されている。対象の学生が多様であり対象人数も多く大規模となる。全学的な検討を経て科目の体系化と実施・運営体制の整備が図られている。
- 2) キャリア構成インタビューは、キャリア構築インタビューと記されることもある。本研究はSavickas(2011)の監訳に基づきキャリア構成インタビューとする。キャリア構成理論、構成、脱構成、共構成も同様とする。
- 3) 「ライフ・ポートレート」は、質問の回答(小さなストーリー)を大きなナラティブへと変容させるために作成する。「ライフ・ポートレート」は、体系的な手順によって6つのテーマ「捉われ」「自己」「場面」「台本」「助言」「未来のシナリオ」から構成される。
- 4) 思う、思いますは、文の最後に感想の表現方法として述べるなど、別の趣旨で使われることが多いため、分析の語の対象としては排除した。

【謝辞】

このたびの研究にあたり、「Career Construction Institute 2017」において水野次郎先生にご支援を賜り、またキャリア構成インタビューのインストラクションにおいてはTracy Lara博士に文献を頂戴した。深く感謝を申し上げる。査読において貴重なご指摘をいただいた先生方に厚くお礼を申し上げます。キャリア構成インタビューに関する教材は、慶應義塾大学湘南藤沢学会研究助成基金2017『大学のキャリア教育科目への「キャリア構成インタビュー」の実装-授業デザインと教員用マニュアル(暫定版)の開発-』の助成をうけ制作した。

【引用文献】

- 中央教育審議会 キャリア教育・職業教育特別部会(2011). 今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm(2019年4月1日)
- 深谷昌弘・田中茂範(1996). コトバの「意味づけ論」 日常言語の生の営み 紀伊國屋書店 10-11.
- 深谷昌弘・田中茂範(1998). 「意味づけ論」の展開：状況編成・コトバ・会話 紀伊國屋書店 359.
- 花田光世(2013). 働く居場所の作り方 日本経済新聞社

- 樋口耕一(2014). 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して— ナカニシヤ出版
- 加藤一郎(2004). 語りとしてのキャリア—メタファーを通じたキャリアの構成— 白桃書房
- 勝又あずさ(2016). アクティブラーニング型初年次キャリア教育:その実践と課題 山本敦久(編) 身体と教養 ナカニシヤ出版 129-139.
- 経済同友会(2018). 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(案)に関する意見
<https://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2018/181017a.html> (2019年4月1日)
- 経済産業省(2018). 人生100年時代の社会人基礎力
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (2019年4月1日)
- 児美川孝一郎(2018). 高校・大学・社会をつなぐ学びの展望—キャリア教育を捉えなおす 未来のマナビフェス 河合塾
- 松尾睦(2011). 「経験学習」入門 ダイヤモンド社
- 文部科学省(2017). 大学における教育内容等の改革状況について(平成27年度) 文部科学省高等教育局 大学振興課大学改革推進室
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1398426.htm (2019年4月1日)
- 文部科学省(2018). 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)(中教審第211号) 高等教育局 高等教育企画課高等教育政策室
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm (2019年4月1日)
- 宗像比佐子(2015). 構成主義キャリア・カウンセリングを教える 渡部昌平(編) 社会構成主義キャリア・カウンセリングの理論と実践 福村出版 230-250.
- 内閣府(2018). 人生100年構想
https://www.kantei.go.jp/jp/headline/ichiokusoukat_suyaku/jinsei100.html(2019年4月1日)
- 長田尚子・中川洋子・川崎友嗣・勝又あずさ・杉谷祐美子(2018). 全学型キャリア教育科目の実践的課題—カリキュラム・マネジメントを手がかりとした考察— 京都大学高等教育研究 第24号55-65.
- 小澤康司(2019). 大学生におけるキャリア意識とキャリア教育授業理解度の関連 立正大学臨床心理学研究 第17号1-12.
- Savickas,M.L.(2011). Career counseling Washington, DC American Psychological Association. (日本キャリア・カウンセリングセンター(監訳)(2015). サビカスキャリア・カウンセリング理論—自己構成によるライフデザインアプローチ 福村出版
- Savickas,M.L.(2015). Life Design Counseling Manual Vocopher
<http://www.vocopher.com/LifeDesign/LifeDesign.pdf> (2019年4月1日)(水野修次郎(監訳)(2016). サビカス ライフデザイン・カウンセリング・マニュアル—キャリア・カウンセリング理論と実践 遠見書房)
- Tracy M.Lara.(2017). Career Navigation Instructor's Manual Version Spring 2017 Kent State University
- 渡部昌平(2016). 社会構成主義キャリア・カウンセリングを参考としたキャリア教育教材の開発と評価 リメディアル教育研究 2016.10, 10 (2) 86-93.

(受付 2019年4月23日/受理 2019年7月30日)

